



ウッティチャイ・ウドムガンチャナナン  
ミネベアグループ執行役員  
兼 NMBミネベアタイ取締役

# NMBミネベアタイの ものづくりへのこだわり

## CSRの原点

ミネベアグループ最大の生産拠点はタイにある。タイに進出して約30年。  
そこにはNMBミネベアタイが作り上げた、ものづくりを支えるCSRの原点があった。

### ミネベアグループ最大の 生産拠点NMBミネベアタイ

1951年、ミネベアは日本初のミニチュア・ボールベアリングメーカーとして創業した。高度経済成長の波に乗って、当社もまた順調に事業を拡大していく。しかし、1960年代に入ると、需要が拡大し、国内工場での人手不足に直面。労働力が潤沢な生産拠点の構築が喫緊の課題となり、アジアで2番目の海外拠点として外国企業を誘致していたタイに進出することになる。

タイの首都バンコクから北へ車で1時

間から2時間ほど走ると、当社の5つのタイ製造拠点を訪れることができる。当社グループは、1982年にタイのアユタヤ県にアユタヤ工場を建設、ミニチュア・ボールベアリングの生産を開始して以来、バンパイン工場、ロップリ工場、ロジャナ工場、ナワナコン工場と順調に生産拠点を増やし、事業規模を拡大してきた。現在は5工場となり、総従業員数31,011人（2011年3月末時点）を有する当社グループ最大規模の生産拠点となっている。

タイに進出した当初から、当社はものづくりへの情熱とこだわりをタイに根付かせることを目指した。高品質の製品を誰よりもより多く、効率的に生産し、世の

中に提供していく「真摯なものづくり」を追求していくためには、当社自体がその土地に根付くことが重要であったし、地域とともに発展することが社会的責任であると考えたからだ。このような考え方から、環境対策、従業員、地域社会・住民への配慮はNMBミネベアタイ（以下ミネベアタイ）にとって当然のことであった。

ミネベアタイの取締役であり、グループ執行役員であるウッティチャイ・ウドムガンチャナナン（以下ウッティチャイ）は、「利益を求めただけでは成長することはできませんでした。ミネベアタイにかかわるすべての人との良好な関係を築くこと

が重要でした」と話す。以下で、ミネベアタイが企業の責任として推進してきた環境対策や従業員の労働環境の整備、従業員の創意工夫をもとにした地域社会・住民への社会貢献活動を紹介する。

## こだわり抜いた環境対策

当社グループは、ものづくりの企業として環境と調和することが、企業活動を行い、当社グループの持続的成長を図っていくための必要条件と考え、工場周辺地域の自然環境を損なわない工場建設、運営を行ってきた。ミネベアタイにおいても、気候や水事情、そしてエネルギー輸入国であるというタイ独自の環境事情に合わせて、環境対策を進化させてきた。

例えば、水事情については日本に比べ豊かではないタイでは、工場で使用する市水を無制限に購入することができない。そこで、工場排水を市水と同等の水質まで浄化して再利用する「工場排水ゼロシステム」を導入している。雨の多いタイだからこそできた工夫ではあるが、雨水を貯水池にためて利用し、水の購入を制限することにも成功している。2010年度のミネベアタイ全体の水の総使用量は3,123千㎡で、うち市水の購入は2,035千㎡と約65%にとどまる。工場排水の再利用は299千㎡、雨水や地下水利用は789千㎡となっている。そのほか、バイオガス発生プラントを導入し、食堂から出される生ごみをバイオガス化させ食堂でLPガスの代替としたり、切粉圧縮機の導入による切削油の再利用など、最先端の環境技術を積極的に取り込んでいる。

また、バンパイン工場内の新工場は「ミネベアで最も優れた省エネ工場」をコンセプトに建設されている。建屋外壁・屋根の遮熱塗装や高効率水冷ターボ冷凍機、高効率送風機、蛍光灯の

電子式安定機などを導入し、従来の当社工場と比べエネルギーコストを約45%削減している。こうした環境対策は、周辺地域に毎月配布している会社の広報誌や、地方自治体の掲示板を通じて情報発信され、地域住民の当社への理解を促している。

環境への取り組みは、法律やISOなどの規格で求められることも多いが、ミネベアタイの場合、ほとんどの取り組みで基準値よりも大幅に高い目標値を設定し、達成してきた。ものづくりへのこだわりから、地域の自然環境を損なわない事業運営の方法を考え、実施している。

## 従業員のミネベアへの誇りを育くむ

地元への社会貢献活動は従業員からのアイデアによるものが多い。地域の事情やニーズをよく知っている従業員からの提案を積極的に受け入れ、ミネベアタイとして活動を行ってきた。従業員がアイデアを投稿できる「提案箱」を工場内に設置しており、助け合いの文化を持ち、宗教心にあつい国民性をミネベアタイの社会貢献活動の推進力としている。

ミネベアタイでは、未来のタイを支え

## ●タイ・カンボジアのミネベアグループ



(注) バンコクからの距離

は、青少年育成に力を入れていて、工場周辺の学校への支援を、工場の運営の中で得たノウハウを生かす形で充実させている。例えば、ごみの分別方法を、工場で実施した経験を元に子どもたちに教えている。これにより、分別ごみの売却が可能となり、その資金は学校運営に生かされる。また、子どもたちに有機野菜の栽培を教える活動では、収穫された野菜は給食に利用されている。ほかにも、工場の備品を利用した学校の図書室新設・図書寄贈、老朽化した校舎の建て替えなど、地域の事情や、学校運営上の課題に着目し、工夫して取り組んでいるのが特徴的だ。ミネベアタイが新設に協力した図書室で、本を貸し出す係りをしている小学校高学年の女子生徒は「勉強が好きです。運動はセバタクロー※を頑張っています。勉強や運動の合間にはよく図書室へ来ます」と楽しそうに答える。

そのほかの地域社会への支援として

は、地域の自立を目的とした取り組みが多い。寺院への食料支援として、筍(たけのこ)を継続して収穫できるよう竹を植樹する活動や、地域住民が収入を得られるように、葬儀で使用する造花の作り方、造花の販売や会計に従業員が指導している。

ミネベアタイは創業当初から人材を育てることを重視してきた。ものづくりを担うのは従業員であり、豊かな発想を持った従業員がものづくりを進化させる。この考え方から、従業員の社会貢献活動への参加を積極的に支援している。

また、従業員の働く環境についても、整備を進めている。労働安全衛生に関する法律を遵守し、従業員の安全を守ることはもちろん、充実した教育機会の提供、送迎バスの導入など、24時間4班3交代勤務を含む、さまざまな勤務形態の従業員に対して手厚くサポートしている。従業員の自主性を重んじる環境も提供している。先の提案箱に加え、日本人

従業員と現地従業員が参加するJCC(The Joint Consultation Committee、合同協議委員会)を設置し、良好なコミュニケーションの維持・向上を図っている。「安全な労働環境や充実した教育機会を通じて、自分が会社から必要とされていると実感できたら、そして自分のアイデアによる社会貢献によって世の中の役に立てたら、従業員はどう感じるでしょうか。会社への誇り、当社グループのメンバーである誇り、会社との一体感。その影響は計り知れないと思います」とウッティチャイはコメントする。

※セバタクロー：9世紀から東南アジアの各地で始まったといわれる伝統的なスポーツ。足や腿または頭を使い、藤で編んだボール(現在はプラスチック製)をネットではさんだ相手コートに蹴り入れる競技

### タイ政府社会的責任 推進プロジェクト CSR-DIWへの参加

ミネベアタイがこれまで「真摯なものづくり」としてこだわり、取り組んできたこ



①工場排水ゼロシステムの処理施設②バイオガス発生プラント③貯水池④バンバイン工場内にある省エネ化工場⑤バイオガスを利用した炊飯設備⑥町役場でミネベアタイの取り組みを掲示⑦高効率水冷ターボ冷凍機



⑧畑作業をする子どもたち⑨造花を作る地域住民⑩ミネベアタイが寄贈した分別用のごみ箱⑪図書委員の女子生徒⑫ミネベアタイ CSR 委員会のメンバー⑬小学校に通う生徒たち⑭ミネベアタイが新設に協力、図書寄贈した学校の図書室⑮給食を食べる子どもたち

とは、現在ではCSRという言葉で表現されている。これまで積み上げてきたものを、CSRマネジメント体制として整備するため、タイの工業省が主催する社会的責任プロジェクト(コラム参照)への参加を進めている。2009年度にバンパイン工場、2010年度にロップリ工場がCSR-DIWに参加。2011年度にはアユタヤ工場、ロジャナ工場も参加する予定となっている。

ウッティチャイはCSR-DIWに参加することについて、「これまでも環境、安全、労働などの国際規格の認証を取得することで、わたしたちが誠実に事業に取り組んでいることを証明し、また規格に合わせ、取り組みを強化してきました。CSR-DIWへの参加をきっかけにCSR委員会が組織され、CSRマネジメントとしてPDCAを回し、これまでより体系立てて整備できるようになったと思います」と話す。2009年度には、これまでの取り組みが評価され、

工業省より表彰を受けている。

日本においても「五つの心得」を基礎に積み重ねてきた社会的責任の取り組みを、CSRの切り口で整理し、体系化を進めている。徐々にグループ全体でのCSRマネジメント体制が整備されてきている。

ウッティチャイは「タイにおけるCSRを今後さらに進めていくために、日本

の本社や各拠点とCSRの分野での連携を深めていきたいと思っています。2011年12月完成予定のカンボジア工場に、タイで培ったCSRの考えを横展開させていきたいと考えています」と話す。グループ全体でCSRの体系化を進め、CSR活動を推進していくことが「真摯なものづくり」を支える。

## コラム

### CSR-DIW

製造業企業の社会的責任推進プロジェクト。タイの工業省が、国際競争力を上げることを目的に、2008年度よりタイ国内の企業にCSRに取り組むことを推進している。会社は操業している場所の社会と地域へ恩返しをするために、機会と誠意を集めた後に分配すべきという考え方を基本としたこのプロジェクトは、ISO26000\*の7つの中核主題に沿った項目「組織統治」「人権」「労働慣行」「環境」「公正な事業慣行」「消費者課題」「コミュニティへの参画及びコミュニティの発展」からCSRに取り組むことを求める。年に一度の監査により、CSR-DIWへの参加資格・継続の有無が決定する。

\*ISO26000: 持続可能な発展を実現するために、国際標準化機構ISOによって開発された、あらゆる種類の組織に向けた社会的責任に関する包括的かつ詳細なガイダンス文書